

「生きる術を知る」



法学部長

はしもと もとひろ
橋本 基弘

モラトリアムという言葉がはやったのは今から30年以上も前のことであるが、今の学生生活は、社会に出る猶予期間どころではない。あまりに慌たたくしく、ものを考える余裕すら与えてくれない。

その中で、学生時代は諸君に何を残しただろうか。大学は今「社会人基礎力」とか「学士力」という表現で質を保障せよと求められている。しかし、あえて言うくと、私たちが諸君に与えられるのは、時間であり、出会いでしかない。世の中のしがらみや利害から解放されて、自在に生きられる時間や良き友、悪い友人、恩師（と呼べる人に出会えたら幸運であるが）との出会いでしかない。もし、きらめくような時間や得難い人との出会いがあったら、諸君の学生生活は成功であったと言えるだろう。

世の中は厳しい。その厳しさは年々増していくようにすら感じられる。順風満帆の人生などないことを肝に銘じてほしい。世の中はまた、勝ちと負けの二項対立で割り切れるほど単純にできてはいない。かつてイタリヤの長寿村を取材したテレビ番組を観たことがある。気のよさそうな爺さんが長寿の秘訣を聞かれていた。質問に答えた老人は、「それは生きる術を知っていたからだよ」と茶目つ氣たつぷりに笑っていた。

「生きる術を知る」とは、社会人基礎力や学士力よりも単純でいて、だいたいなことではないだろうか。生きることはしんどいことではあるが、とにかく生きることがどれほど価値のあることか。その価値が分かれば、諸君が知り合った友人や師が生きることのスパイスとなっていくであろう。まず生き、そして生きることを楽しんでもらいたい。

卒業おめでとうございます



経済学部長

せきの みつお
関野 満夫

経済学部卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。

多くの方はこの4月から実社会に進んで、社会人としての一步を踏み出すことになると思います。その一方で、昨今の雇用情勢の悪化から、就職活動の継続を余儀なくされる方もいるかもしれません。いずれにせよ、大学卒業を機に新しい人生のステージに立つことになりました。経済学部の教職員一同はみなさんの活躍を期待しております。

経済学部を卒業するということは、学士（経済学）の称号を授与されるということですが、今後、みなさんは周囲から経済学士としての実力を備えているとみなされます。その心構えはできているでしょうか。経済学部で4年間学ぶことによって、みな

さんは経済学の一定の体系的知識を身につけたことでしょうか。と同時に重要なことは、授業やゼミ活動などを通じて、様々な应用能力や総合的判断能力を養ってきたはずで、学士に期待されるのは、この知識と総合的な応用判断能力なのです。

日本および世界の経済現象や社会現象は日々変化しており、大学で学んだ知識だけでは今後十分に対処できないこともあるかもしれません。その意味では、卒業で勉強から解放されると思うのではなく、卒業後も読書や教養の機会を活用して、知識と知的能力を不断に深めるよう努力してください。

最後に、今後とも健康に留意して、少しのことにくじけず、前向きに人生を歩んでいかれることを期待して、贈る言葉とさせていただきます。

一度、立ち止まって



商学部長

かわい ひさし
河合 久

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新たな世界に進むスタートラインに堂々と立つ皆さんの姿を拝見し、教員の一人として感慨を覚えます。

4年前、皆さんはそれぞれに目的をもって商学部に入學したはずで、大学への進學目的を将来の職業選択の手段と考えた人と、社会人になるまでの漠然とした準備期間と位置づけた人とに大別できるでしょう。貴方はどちらでしたか。いずれにしても、皆さんは中央大学商学部というステージで人生の貴重な時間を過ごしたことに間違いありません。

この4年間でなぜ貴重なのでしょうか。ゼミでの専攻分野に特化して學問に励んできた場合でも、難関国家試験の準備に専心してきた場合でも、あるいはスポーツ・文化活動に注力してきた場合でも、皆さんは中大生であるがゆえに高いレベルの努力を求められました。その過程では、皆さんの多くが当初の目的を簡単には果せない苦悩を味わったことでし

う。しかしいかなる状況にも共通する事実は、日々の営みが貴方自身の選択によるものであって、しかもそれについて考えることができる時間を多く持てたということです。そして近くには利害とはおよそ無縁の友人がいたことです。その事実こそが大学生の特権であり、皆さんの貴重な財産であり、社会人として持つべき自立心と責任感の確立に繋がるのです。自信を持つてください。

さて、昨年の東日本大震災は私たちの経済社会に大きな課題を投げかけています。それは二度、立ち止まって考え直そう」という問いかけでもあると思います。いかなる職業も日本経済の再生に向けて直接または間接に貢献していかねばなりません。そのためにも、二度と訪れることのないこの4年間に区切りを打つ今日、多忙な新生活に奔走する前に、貴方が中央大学で得た具体的な財産とは何か、それらを今後の職業や人生にどのように活かすことができるのか、少しだけ再考してみてください。

最後に、これからの皆さんの人生が大切な家族と共に幸せに満ちたものであることを心よりお祈りいたします。

チャレンジジャーであり続けよう



理工学部長

いしい よういち
石井 洋一

ご卒業おめでとうございます。学生から社会人へと大きなステップを登り、新しい世界へ羽ばたこうとしている皆さんに心からのお祝いを申し上げます。

皆さんの中には、実社会での夢の実現に向かつて胸をふくらませている人もいれば、新しい環境で働くことに少し不安を持っている人もいることと思います。この1年間に起きた社会変動の大きさを考えれば、将来の見通しの利きにくい実社会へと漕ぎ出すことに不安を抱くのは当然のことかもしれません。

しかし、皆さんが大学へ入學したときのことをちよつと思ひ起こしてみてください。高校とは違う環境で、新しい學問を始めることに戸惑ったのではないのでしょうか。その変化を乗り越えてステップアップし、皆さんは卒業を迎えたのです。それと同じで、社会に出るこの春も、またこ

れからの長い社会人生活の節目節目でも、新しい環境で新しい仕事をするという経験を皆さんは何回となくすることになるでしょう。それまでと異なった環境が与えられれば、そこで新しいことを進んで学び、努力して自分の能力を高めていくことは、これからもずっと求められるし、それが一人ひとりのステップアップにつながる道なのです。大学を卒業したからといって学びが終わるのではなく、新しいことにずっとチャレンジし続けることこそが大切なのです。失敗を恐れるより、チャレンジしないことを恐れてください。皆さんには、理工学部で培った「学ぶ力」があるではありませんか。皆さんが努力を重ねた理工学部での生活の間に、どんな状況にも適応できる力が、それとは意識せずとも身につけていると私は確信しています。自分の力を信じて、チャレンジジャーであり続けてください。きつとその先に、夢をかなえる道があります。

英知の結集を



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
 一つの時代もいろんな難題を抱えています。特に、現在のよう
 に、根本から人間社会が揺さぶられ
 て先行きが見えず、見直す、出直す
 といってもこれといった具体策がない、
 これほど混沌の深い時代はあまり
 ないかも知れません。大規模な災
 害や不況を経験している現在にお
 いて、人生は未知との遭遇に満ち、不
 測の事態にいつ遭遇するか分からな
 い不安定な世界であることを多くの
 人が改めて痛感しているのではない
 かと思えます。私たちはもちろんこ
 の時代を乗り切つていかなければな
 りませんが、日本の社会に伝統的に
 ある事なかれ主義でも、また、硬直
 化したイデオロギーでも対応ができ
 ない。これだという決定打もなく、
 事が起こること、その解度、柔軟
 に多角度から事態を読み解くことが
 要請される時代なのではないでしょ
 うか。大局的に柔軟に事態を捉える
 訓練を積み重ねながら、その中で明
 目を創意工夫をもって考える能力が
 求められるのではないかと思います。

文学部長

河西 良治
かさい りょうじ

人類が英知を結集して苦難を乗り
 越えていくことがこれほど求められ
 ている時代は稀有ではないかと思
 います。それには、同時代を生きて厳
 しい状況に立ち向かっている仲間達
 の英知を結集することが必要です。
 また、長い人類の歴史のなかで、幾
 多の苦難を乗り越えてきた先人達の
 経験に裏打ちされた人類の英知も同
 時に結集することが大切ではないか
 と思えます。卒業していく皆さん一
 人ひとりには、大学で学んだ、人間
 や社会を読み解く力、変えていく力
 をぜひ創造的に活用してほしいと思
 います。生半可なことでは容易に解
 決のできない今の時代状況ではあり
 ますが、大学で得た知と力を現実と
 という場で絶えず練磨しながら、洞察
 力のある幅広い教養と自由で柔軟な
 発想を発揮し、これからの社会や情
 勢をしつかりと見極めて行動できる
 人になってほしいと思います。
 人間は、日々創造的に生き、一生
 をかけて成長を続けていく素晴らし
 い存在だと思えます。最後になりま
 すが、皆さん一人ひとりに与えられ
 た天命が全うされることをお祈りし
 て、私の贈る言葉といたします。お
 元気で。

はなむけの言葉



総合政策学部長

丹沢 安治
たんざわ やすはる

新しい人生に向けて期待と不安が
 交差していることと思います。そこ
 で考えていただきたいのは、皆さん
 の新たな生活の場となる社会環境は
 どのようなものかということ。
 キーワードを挙げれば、「リーマン
 ショック以来の不況」、「少子高齢化
 社会」、「若年層のワーキングプア」、
 これらに関連して蔓延する「閉塞感」、
 こういったところだろうと思えます。
 さらに新興国経済の成長とそれに伴
 う新興国市場のプレゼンスの増大も
 重要です。しかし実際に新たな組織
 に属してみても眼前に直面する可能性
 が高く、もつとも悩ましいのは、解
 決策が頭では分かっているのに、慣
 性として動かない組織や文化によつ
 て解決が阻まれていくという状況だ
 ろうと思えます。
 この現実に向かうためには、
 これまで培った知識、能力、創造力
 など全般的な力だけでなく、偏りの
 ない視点、若さによるエネルギー、
 そして強い気概が必要です。なぜな
 ら、組織や文化における慣性は、た
 いてい「そこそこの成果」を蓄積し
 ているため、解決策に対しては、「正
 統なもの」として当然視する人は少
 数となり、異端として白眼視する人
 が多数となるからです。しかし、強
 い気概を持つて臨めば、実際に成果
 を上げ、その成果の力でだんだんと
 「正統なもの」として社会的に受け
 入れられていきます。このプロセス
 は新たな現実に向む人々には宿命的
 につきまとうものです。ぜひ強い気
 概を持つて新たな正統性の獲得をめ
 ざして生きていくことを期待してい
 ます。